

第3期唐津市地域福祉計画 主要事業一覧

基本目標	施策の方向	No.	主要事業名	担当課
I 地域での包括的な支援のために	1 多分野・多機関連携体制の整備	1	福祉総合相談支援体制の整備	福祉総務課ほか
		2	生活支援体制整備事業	地域包括支援課
	2 地域医療・福祉の充実	3	在宅医療・介護連携推進事業	地域包括支援課
		4	離島診療所の医師及び看護師確保	保健医療課
		5	小地域福祉活動推進事業補助金	福祉総務課
	3 地域の見守り体制の充実	6	民生委員費	福祉総務課
		7	既存公共施設の地域の見守り拠点化の検討	福祉総務課 生涯学習文化財課
		8	学校・家庭・地域社会の連携強化	学校教育課 学校支援課
II 利用しやすい福祉サービスの提供のために	4 情報提供の充実	9	唐津市保健福祉ガイドブック（仮称）の発行	福祉総務課ほか
	5 相談支援体制の充実	10	各相談支援窓口職員向け研修の実施	保健医療課 こども家庭課 障がい者支援課 高齢者支援課 地域包括支援課 生活保護課
		11	民生委員・児童委員及び福祉員の研修活動への支援	福祉総務課
		12	福祉部門に配置する専門職の雇用	人事課
	6 権利擁護体制の整備	13	成年後見制度利用支援事業	障がい者支援課 地域包括支援課
	7 災害・緊急時の支援体制の充実	14	避難行動要支援者名簿の活用と啓発	福祉総務課 危機管理防災課
		15	自主防災組織の設置促進	危機管理防災課
III 福祉サービスの向上のために	8 福祉サービスの質と量の充実	16	福祉サービス苦情解決制度	福祉総務課
	9 新たな福祉ニーズへの対応	17	個別計画策定（見直し）時における当事者の参画	保健医療課 こども家庭課 障がい者支援課 高齢者支援課
		18	住宅改修費の助成	障がい者支援課 高齢者支援課
	10 生活環境の整備	19	高齢者住宅改修支援事業	高齢者支援課
IV 参加しやすくするために	11 地域活動の担い手の確保と育成	20	地域コミュニティ組織等の活動への支援	地域づくり課
		21	がんばる地域応援補助金事業（地域の市民活動の育成を図るソフト事業）	地域づくり課
	12 福祉ボランティアの推進	22	唐津市ボランティアセンターの運営支援	福祉総務課
		23	市民活動支援センター「ステップ」の運営支援	高齢者支援課
		24	介護支援ボランティア制度によるボランティア活動の推進	地域包括支援課
	13 地域福祉に対する意識の啓発	25	地域福祉の啓発	福祉総務課
		26	認知症サポーター養成講座の開催	地域包括支援課
27		総合的な学習の時間等を活用した福祉教育の推進	学校教育課	

※第3期唐津市地域福祉計画の取り組み、進捗状況及び自己評価について、主要事業毎に「進行管理・評価シート」を添付していますので、ご参照ください。

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	1	計画書ページ	36ページ
事業名	福祉総合相談支援体制の整備		

基本目標	I 地域での包括的な支援のために
施策の方向	1 他分野・他機関連携体制の整備
担当課	福祉総務課ほか6課

1 事業概要

相談支援について、分野を横断した連携を強化し、包括的で総合的な相談支援が行えるような体制づくりを進めます。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】

福祉まると総合相談窓口寄せられた分野をまたがる案件に対し、関係各課で情報を共有し対応する。

保健福祉部の総合窓口として、各課窓口への案内職員を引き続き1名配置した。

【成果】

相談先の分からない来庁者に対し、適切な案内が出来た。また、複合的な案件に対して、関係各課で集まって対応を協議するなど、分野を横断した対応を行うことができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】

総合相談窓口のあり方として、国が示す重層的支援体制整備事業に取り組む必要がある。

福祉相談支援包括化推進員については、福祉まると相談窓口への相談実績の状況に応じ、必要性について検討する必要がある。現在は福祉総務課職員にて対応中。

【取り組み方針】

福祉まると総合相談窓口で解決できない案件も多いため、重層的支援体制整備事業として、市・社会福祉協議会・民間事業者と分野・機関を越えて連携する体制の構築を図る。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
福祉総合相談窓口の設置	目標	実施方法の検討	担当課協議	予算の確保	設置	実施	-	5	100%	完了（目標達成）	3.0	福祉まると総合相談窓口は設置できたが、新たに重層的支援体制整備事業への取り組みが課題である。
	実績	検討中	実施	確保済	設置済	実施		4	75%	順調に進んでいる		
	達成度	75%	75%	75%	100%	100%		3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
福祉相談支援包括化推進員の設置	目標	実施方法の検討	実施方法の検討	委託先の選定	検討	検討	-	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績	検討中	検討中	検討中	検討中	検討中		1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度	25%	25%	25%	25%	25%						

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

地域で気になる世帯などがあれば、福祉まると相談窓口や民生委員・福祉員まで情報提供をお願いしたい。

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	2	計画書ページ	38ページ
事業名	生活支援体制整備事業		

基本目標	I 地域での包括的な支援のために
施策の方向	2 地域医療・福祉の充実
担当課	地域包括支援課

1 事業概要

介護や支援を必要とする高齢者などの需要に応じ、多様な機関を有機的に結び、必要な情報の共有化を進め、総合的で継続的に保健・福祉・介護サービスを提供する地域包括ケアシステム体制の推進のため、中学校区等（全27地区）ごとに地域協議体を設置し、生活支援コーディネーターを配置します。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
地域協議体の開催支援や高齢者アンケート調査の結果から、地域ごとに取り組む内容を検討した。 通所型、訪問型、移動型の住民主体サービスに係る補助事業を施行した。
【成果】
地域協議体の中から出てきた内容の取り組みとして、生活支援活動（15ヶ所）に取り組む地域が増えている。R5年度施行の住民主体サービスに係る補助事業において、通所型が1団体、訪問型が2団体、移動型が2団体の計5団体に対して補助金交付を行い、運営に係る支援体制を構築した。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
地域での支え合い活動が始まるように地域の問題意識を高める必要がある。また支え合い活動のため、地域のマンパワーの確保が課題である。
【取り組み方針】
地域での支え合い活動が継続的・安定的に実施されるよう運営に関する支援を行っていく。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
地域協議体の設置（地区）	目標	27	27	27	27	27	地区	5	100%	完了（目標達成）	4.0	全地区で地域協議体の設置ができたが、地域により取り組み状況に温度差があり、支え合いの啓発が繰り返し必要。
	実績	25	27	27	27	27		4	75%	順調に進んでいる		
	達成度	93%	100%	100%	100%	100%		3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
生活支援コーディネーター	目標	14	14	14	14	14	人	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績	12	12	12	12	12		1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度	86%	86%	86%	86%	86%						

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

地域協議体の取り組みや活動を知ってもらい、可能な範囲で参加・協力をしてほしい。

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	3	計画書ページ	38ページ
事業名	在宅医療・介護連携推進事業		

基本目標	I 地域での包括的な支援のために
施策の方向	2 地域医療・福祉の充実
担当課	地域包括支援課

1 事業概要

市が設置する「在宅医療・介護連携支援センター」において、医療・介護サービス関係者からの「在宅医療」に関する相談などに対応し、地域医療と介護の連携を推進します。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
 相談対応：「在宅医療・介護連携支援センター」月平均10件 会議開催：在宅医療・介護協議会ワーキンググループ委員会12回、訪問看護部会5回、退院支援ルール会議2回
 情報共有：退院支援ルールアンケート実施。研修会の開催：多職種連携研修会6回 参加者約514人 住民への普及啓発：いきかたノートの説明会を実施。開催回数：16回、参加者数：306人。
【成果】
 退院調整もれ率がR4年度12.7%→R5年度14.1%と悪化。退院調整がもれた理由として、「退院後に担当になった」、「短期間の入院」等調整ができなかった妥当な理由が聞かれた。併せて心不全の発症・再発を防止し、在宅医療を続けるための退院時引継ぎについて協力を求め、心不全予防のチェックシート等をホームページに掲載した。いきかたノートの配布時や説明会を通して、在宅医療と介護連携、ACPIについて地域住民の理解を図った。R5年度発行888冊

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
 市民公開講座の取り組み。在宅医療・介護連携における「本市の目指すべき姿」の実現に向けた取り組み。地域住民への普及啓発（医療や介護について理解）

【取り組み方針】
 対面での市民公開講座を実施する。在宅医療・介護連携における本市の目指すべき姿「本人が自分らしく安心して人生の最期まで生きるとともに、本人が望む場所、望む形で、最期まで暮らすことができる」の実現に向けて、ACPの普及、在宅医療・介護連携支援センター「ぴあと」の窓口機能及び調整機能の強化を行う。いきかたノートの普及啓発。市報連載（在宅医療・介護サービスについて）

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
多職種研修会	目標	2	2	4	4	4	回
	実績	3	1	7	5	6	
	達成度	150%	50%	175%	125%	150%	
ワーキンググループ委員会	目標	—	—	12	12	12	回
	実績		11	12	12	12	
	達成度	—	—	100%	100%	100%	

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	5.0	対面での多職種研修会を実施。住民公開講座として、いきかたノート講演会を各市民センターにて実施。ACPの普及にも努めた。今後も在宅医療・介護連携の現状や課題を整理しながら効果的に事業を進める必要がある。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点がある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

在宅医療・介護連携について関心を持ち、理解を深めてほしい。

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	4	計画書ページ	38ページ
事業名	離島診療所の医師及び看護師確保		

基本目標	I 地域での包括的な支援のために
施策の方向	2 地域医療・福祉の充実
担当課	保健医療課

1 事業概要

医療施設に恵まれない離島住民の健康保持、医療・衛生の向上のため、市内5か所の離島診療所で従事する医師と看護師を確保します。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
市民病院からの人事異動により常勤医師を確保した。

【成果】
高島診療所の医師の配置により市内5か所の離島診療所における診療体制を確保した。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
医師不足、医師の働き方改革により、医師の欠員が生じる可能性がある。

【取り組み方針】
医師については県の派遣や市民病院の協力を得ながら医師の確保を行う。また、対面による診療に加えオンライン診療を活用し、診療体制を維持する。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
離島診療所の医師数 ⇒神集島 1人 馬渡島 1人 高島 1人 小川島 1人 加唐島 1人	目標	5	5	5	5	5	人	5	100%	完了（目標達成）	5.0	高島診療所においては医師の欠員となっていたが、R4年度からは人事異動により常勤医師の配置ができたことにより目標を達成した。
	実績	4.8	4.7	4.7	5	5		4	75%	順調に進んでいる		
	達成度	96%	94%	94%	100%	100%		3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
離島診療所の看護師数 ⇒神集島 2人 馬渡島 2人 高島 1人 小川島 1人 加唐島 1人	目標	7	7	7	7	7	人	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績	7	7	7	7	7		1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度	100%	100%	100%	100%	100%						

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	5	計画書ページ	39ページ
事業名	小地域福祉活動推進事業補助金		

基本目標	I 地域での包括的な支援のために
施策の方向	3 地域の見守り体制の充実
担当課	福祉総務課

1 事業概要

小地域における福祉のリーダーとして市社会福祉協議会と地区（校区）社会福祉協議会が設置する「福祉員」の活動を支援します。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
小地域における福祉のリーダーとして活動する福祉員の活動費に対し補助を実施した。

【成果】
地域内連携を強化し、特に高齢者世帯の見守り活動等に力を入れたことで、コロナ禍後の引きこもりがちな高齢者や不安を抱える地域の方などに対し福祉員がサポートを行うことで住民相互の助け合い活動や交流事業の推進に繋がった。その他、福祉員研修では、町内会長を中心に町ごとにグループワークを行うなど、地区内の情報共有を密に行うことができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
地域課題の解決、きめ細やかな支援につなげていくのため、民生委員や地域の関係者、関係機関との連携をより密に行っていく必要がある。また、地区によって活動に差があることから、地区を超えた福祉員同士の情報交換や活動事例紹介などを行っていく必要がある。

【取り組み方針】
地区によって活動に差があることから、今後は地区（町）ごとのグループワーク等を実施し、それぞれの地域の課題の洗い出しや情報共有を継続的に行い、地区ごとの問題解決に向け活動を促進させる。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
福祉員の設置数	目標	891	891	891	1,020	860	人
	実績	857	858	852	832	820	
	達成度	96%	96%	96%	82%	95%	
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.5	R3年度以降、福祉員数が伸びず、福祉員の重要性を地域の方に理解してもらうことが必要である。継続的に行うことが重要であるが、同時に福祉員の役割を見直すことも必要と考える。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点がある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	6	計画書ページ	40ページ
事業名	民生委員・児童委員の活動支援		

基本目標	I 地域での包括的な支援のために
施策の方向	3 地域の見守り体制の充実
担当課	福祉総務課

1 事業概要

地域における身近な相談窓口である「民生委員・児童委員」の活動を支援するとともに、地域の実情に応じた適切な定数を確保します。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】

民生委員・児童委員に求められる活動が多種多様となっていることもあり、委員の負担が増えている。それに伴い活動する際に個人に係る費用負担も増加していることもあったため、令和2年度から活動費や協議会に対し、市からの補助金を増額した。

【成果】

民生委員・児童委員の研修などの充実により、各委員の資質向上を図ることができた。また、活動を補助することにより、各委員の経済的負担を軽減し、円滑な委員活動に寄与した。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】

民生委員・児童委員に求められる活動が多種多様となっていることから、委員に対し適切な情報提供を行うなど、活動を支援していく必要がある。

【取り組み方針】

市への問い合わせにおいて窓口を一本化し、その窓口において事案に応じた対応を速やかに確認することができる体制を整える。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
民生委員定数	目標	336	336	336	一斉改選 336	336	人
	実績	335	335	336	336	336	
	達成度	99%	99%	100%	100%	100%	
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	コロナ禍においても、民生委員・児童委員ができる範囲での活動を行っており、順調に運営できている。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	7	計画書ページ	40ページ
事業名	既存公共施設の地域の見守り拠点化の検討		

基本目標	I 地域での包括的な支援のために
施策の方向	3 地域の見守り体制の充実
担当課	福祉総務課、生涯学習文化財課

1 事業概要

地域に存在する公民館などの既存公共施設を、地域の見守りの拠点とするための検討を進めます。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】

市立公民館及び地区公民館において、地域住民の交流の場、見守りの場として、子ども食堂やいきいきサロン、100歳体操事業を展開・支援した。なお、市立公民館25館では、主催講座やサークル活動がコロナ禍前の活発な活動状況に戻っている。

【成果】

令和4年度は新たに7か所（さんて、原公民館など）で100歳体操が開催されるなど、着実に見守りの場が広がっている。
再犯防止推進の観点から、保護司の面接場所としての公民館の利用について協力をを行い、2か所の公民館（鬼塚公民館、浜玉公民館）で利用があった。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】

公民館の新規利用者の取り込みを見据えた新規講座や行事開催の計画をする必要がある。また、市HPで主催講座やサークル活動について案内しているが、より広い周知が必要である。

【取り組み方針】

既存公共施設において、多くの住民が参加できる事業を展開し交流の場としていく。また積極的な参加を促すため広報を強化していく。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
地域の見守り拠点の設置	目標	検証	130	145	145	145	箇所
	実績	実施	141	143	150	145	
	達成度	50%	108%	99%	103%	100%	
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.5	講座や行事を実施・支援し、地域住民の交流の場としているが、見守り拠点としての意識付けが必要である。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

地域行事へ積極的に参加する、または呼びかけを行うなど、住民同士の顔が見える関係づくりをお願いします。

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	8	計画書ページ	40ページ
事業名	学校・家庭・地域社会の連携強化		

基本目標	I 地域での包括的な支援のために
施策の方向	3 地域の見守り体制の充実
担当課	学校教育課、学校支援課

1 事業概要

学校、家庭、地域社会が一体となって子どもたちを育む地域とともにある学校づくり（コミュニティスクールづくり）を推進します。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】

第一中学校校区の3校（第一中学校、長松小学校、大志小学校）において、コミュニティスクールが設置されており、地域人材を活用しながら、中学校では面接指導や職業体験、ボランティア活動、小学校では職業講話や高校と連携した夏休みの学習支援等が実施された。また、各小中学校では、自然環境や伝統を活かした体験活動が実施された。地域人材を活用した体験活動としては、陶芸（納所小、加唐小中）、ヨット体験（西唐津小、西唐津中）、農業体験（厳木小、田野小）、漁業体験（佐志小、馬渡小中、小川小中）、文化伝統体験（北波多小、呼子小）、ボランティア活動（湊中）等が実施され、地域の文化を学ぶ学習などを行った。

【成果】

地域の子どもの自尊感情が育つように、児童生徒の活躍場面や承認場面を増やし、様々な学校行事や学習活動を家庭・地域の協力を得て行うことで、児童生徒の教育活動についての学校・家庭・地域における連携を強化した。また、地域や学校の実情に合った本物に触れる活動に取り組むことは、豊かな心で自ら学ぶ児童生徒の健全育成を図ることができるとともに、学力向上の基盤となる「自己肯定感」の高まりも期待できるため、キャリア教育を含む豊かな体験活動の充実につながった。R5全国調査における意識調査「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の問いでは、唐津市は全国を上回った。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】

学校・家庭・地域との連携をする上で、学校の負担感も大きい。活動をコーディネートしていく地域人材や団体が必要である。

【取り組み方針】

第一中学校校区のコミュニティスクールの取り組みを支援する。全小中学校において、今後の学校・家庭・地域社会が一体となって子どもたちを育む地域とともにある学校づくりを推進する。今後も地域人材の活用を勧め、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育む活動を推進する。また、コミュニティスクールに係る国や県の動向を各学校に周知していく。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
外部人材の活用	目標	10,000	12,732	6,679	1,971	2,200	人
	実績	12,732	6,679	1,971	2,199	3,623	
	達成度	127%	52%	30%	112%	165%	
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	5.0	年間を通じて、各学校の教育活動における、家庭・地域への情報発信、協働した活動を積極的に行ってきた。積極的なプレスリリースを促すことで、学校や地域の良さに気づき、ふるさとの魅力を再発見するよい機会となっている。リモートの活用などコロナ禍で実施してきた工夫の良さも併用しつつ、事業を推進することができた。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点がある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	9	計画書ページ	47ページ
事業名	唐津市保健福祉ガイドブック（仮称）の発行 （情報提供手段の充実と多様化）		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	4 情報提供の充実
担当課	福祉総務課ほか

1 事業概要

市が提供している保健・福祉分野の各種サービス等を網羅した、市民向けのガイドブックを発行します。
（情報を必要とする人に届く仕組みづくりを進めるとともに、わかりやすい情報発信の仕方となるよう工夫、充実します。）

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】

令和元年度から掲載内容や発行方法を検討してきた。その過程で、既存の「唐津市くらしのガイド」の掲載内容を充実させ、冊子形態以外の新しい情報提供手段として、AI活用を含む情報提供手段の充実に向けた取り組みを行う方針に決定し、新しい情報提供手段の検討を開始した。令和5年度において、聴覚障害のある方や外国人の方を対象に、本庁舎窓口における新しいコミュニケーションツールとして、UDトーク（コミュニケーション支援ソフト）をインストールしたタブレットを設置した。また、子育て分野においては唐津市公式LINEを活用した情報提供を開始することができた。

【成果】

本庁舎1, 2階の各課窓口にて10台設置し、聴覚障害のある方や外国人の方との意思疎通に役立っている。また、タブレット端末の活用した窓口案内が可能となり、窓口利用者に対して、ビジュアル的にわかりやすい情報提供を行うことができた。また、子育て分野においては唐津市公式LINEを活用した情報提供を開始し、情報を必要とする人に届けやすい仕組みをつくることができた。

【課題】

唐津市公式LINEを活用した情報提供を行う分野の拡大、AIを活用した相談システムの構築を検討する。

【取り組み方針】

冊子形態以外の新しい情報提供手段について検討を進める。
令和6年度に予定されているホームページのリニューアルに合わせ、AIチャットボットの機能追加について引き続き検討を進める。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
新たな情報提供手段の導入	目標	掲載内容及び発行方法の検討			手段の検討	実施	-
	実績	検討中	検討中	方針決定	検討中	実施	
	達成度	75%	75%	100%	100%	100%	
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	情報提供の新しい手段に取り組みることができたが、AIを活用した相談システムの構築についての取り組みが課題である。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	10	計画書ページ	49ページ
事業名	各相談支援窓口職員向け研修の実施		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	5 相談支援体制の充実
担当課	保健医療課

1 事業概要

各相談支援機関の窓口で主に相談支援業務に従事する職員の専門性を高めるため、外部研修などを積極的に受講します。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】

新任期保健師研修会3回延5名・新任期保健師実地指導者研修会2名・日本公衆衛生看護学会2名・中堅期保健師研修2回延4名・新任期中堅期管理期保健師研修会4名は、集合研修で受講。地域保健福祉従事者研修会27名はオンラインでの受講。職場内研修の機会として保健事業連絡会は12回実施。

【成果】

研修を受けることにより、それぞれの年代で担っている保健師としての役割を学ぶことができ、また、専門的知識を学ぶことにより、相談従事専門職として力量形成を図ることができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】

相談業務は様々なケースがあり、経験年数が少ない職員の育成が課題である。

【取り組み方針】

地区担当制及び業務担当制をとし、職員育成を推進していく。（共に訪問等の相談業務にあたることにより後輩職員が先輩職員から学ぶ場を作っていく）

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
職場外研修の受講	目標	6	6	6	6	6	回
	実績	6	2	5	6	6	
	達成度	100%	33%	83%	100%	100%	
職場内研修（保健事業連絡会）の実施	目標	12	12	12	12	12	回
	実績	11	10	9	12	12	
	達成度	92%	83%	75%	100%	100%	

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	コロナ後よりオンラインで研修を受講できるようになり、多くの保健師が参加でき、知識の習得につながった。保健事業連絡会で他課の職員も含め情報共有・学習の場を確保することができた。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点がある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	10	計画書ページ	49ページ
事業名	各相談支援窓口職員向け研修の実施		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	5 相談支援体制の充実
担当課	こども家庭課

1 事業概要

各相談支援機関の窓口で主に相談支援業務に従事する職員の専門性を高めるため、外部研修などを積極的に受講します。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
 4,5月にDV関係機関相談員向け研修、5月にDV被害者支援研修、5,7月にDV被害者支援市町連携会議、5月～10月に佐賀県児童虐待防止対策研修会（計6回）、7月に市区町村子ども家庭支援指導者研修、12月に学校等における児童虐待防止研修会、2月にゲートキーパー養成講座、3月に自殺対策思春期こころのケア研修会の年間15回出席。

【成果】
 相談援助技術について習得することができ、様々な相談に対応する際に実践し、相談者に対して適切な指導や助言を行い、必要な支援につながった。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
 保護者や学校、保育園等様々な関係者・機関からの相談を受け、支援内容が多岐にわたる中、状況に応じ迅速に対応ができるよう、専門職人材の獲得及び相談員の育成が課題。研修において専門職として必要な知識及び技術を習得し、各相談員の資質を向上させる必要がある。

【取り組み方針】
 計画的な研修受講を継続し、受講後に他相談員や職員に伝達講習を行うこと、また、相談支援業務に関連する市の事業についての知識を深めることで、相談支援体制を強化する。また、面接や訪問の際には、相談員が複数人で対応することとし、特に経験が浅い相談員は先輩相談員と同行し相談業務の実践を通してスキルアップを目指す。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
虐待対応専門員、家庭児童相談員及び母子父子自立支援員に関する研修の受講	目標	4	4	4	4	10	回
	実績	4	4	7	14	15	
	達成度	100%	100%	175%	350%	150%	
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	研修の受講回数は目標を達成したものの、今後は研修で得た知識を生かし、実際の現場での実践力をさらに強化することが求められる。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	10	計画書ページ	49ページ
事業名	各相談支援窓口職員向け研修の実施		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	5 相談支援体制の充実
担当課	障がい者支援課

1 事業概要

各相談支援機関の窓口で主に相談支援業務に従事する職員の専門性を高めるため、外部研修などを積極的に受講します。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
 相談支援事業のスキル向上のための佐賀県自立支援協議会人材育成部会及びファシリテーション・ミーティング研修に参加。相談支援従事者研修の研修会講師として参加。相談支援事業連絡協議会へも引き続き参加した。さらには、国が行う相談支援従事者指導者養成研修や、新入職職員は相談支援従事者初任者研修にも参加した。

【成果】
 佐賀県自立支援協議会人材育成部会などに参加し、研修講師の役割を担うなど、県内の相談支援発展のための役割を担うことができた。毎月のファシリテーション・ミーティング研修会に参加したり、佐賀県が開催する専門コース別研修は積極的に参加し、ファシリテーション技術や、スーパービジョンについて学んだ。相談支援事業連絡協議会へ引き続き参加することにより、他圏域の相談窓口との連携強化を図ることができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
 自主的に相談に来られない地域の障がい者の方々のアウトリーチ等によるニーズの把握。地域の相談支援体制の強化に向けた人材育成。事業所訪問などを通じた地域の事業所との積極的な情報共有。自立支援協議会を活用した事業所間の連携強化やその仕組み作り。

【取り組み方針】
 人材育成部会（ファシリテーション・ミーティング研修）への積極的な参加。
 地域の関係機関とできる範囲での連携を図り、相談支援センターから障がい者の相談支援に繋がる方法を検討する。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等	R1	R2	R3	R4	R5	単位	
研修等への参加	目標	12	12	12	12	12	回
	実績	10	11	13	11	33	
	達成度	83%	91%	108%	91%	275%	
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	コロナ禍が終了し、集合研修も再開しつつあり、オンライン研修と並行して参加した。集合研修でしか習得できないスキルを獲得でき、日頃の業務に還元できた。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	10	計画書ページ	49ページ
事業名	各相談支援窓口職員向け研修の実施		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	5 相談支援体制の充実
担当課	高齢者支援課

1 事業概要

各相談支援機関の窓口で主に相談支援業務に従事する職員の専門性を高めるため、外部研修などを積極的に受講します。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】

認定調査員新任研修（佐賀県）を1人が受講した。例年実施されている認定調査員能力向上研修（厚労省）及び認定調査スキルアップ研修（民間）は実施されなかったため、以前の研修で得た知識等を職場内で共有することで理解を深めた。

【成果】

これまでの研修等の内容を課内であらためて研究し理解を深めることで各業務における専門性を高めることができた。利用者が抱えるそれぞれの課題を的確に抽出することにより、利用者に寄り添った相談支援が実施できた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】

専門的な相談支援を実施するため、経験年数が少ない職員の育成が課題。

【取り組み方針】

業務分担を整理し、計画的に研修を受講することで職場全体のスキルアップを目指す。研修で得た知識等を職場内で共有することで理解を深める。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
研修受講回数 ※同一の研修の場合は、参加人数に関わらず1回とカウント	目標	—	5	3	3	3	—
	実績	—	2	1	1	1	
	達成度	—	40%	33%	33%	33%	
—	目標						—
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	2.0	例年行われる研修の実施がなかった。回数目標の3割程度しか達成できていないため、自己評価2.0とした。 R6年度については、オンラインによる研修実施予定。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	10	計画書ページ	49ページ	基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
事業名	各相談支援窓口職員向け研修の実施			施策の方向	5 相談支援体制の充実
				担当課	地域包括支援課

1 事業概要

各相談支援機関の窓口で主に相談支援業務に従事する職員の専門性を高めるため、外部研修などを積極的に受講します。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】

令和4年度に引き続き、保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員等の専門職が専門性を高めるため、国、県、関係団体等主催の研修（WEB研修を含む）を積極的に受講した。必要に応じて報告会や学習会を行う等課内で情報共有を行った。

【成果】

相談内容は、身寄りのない高齢者や認知症、周囲からの対応困難なケース、権利擁護等の専門性の高いスキルがないと対応できないものが増えている。研修を受けることによって、スキルアップにつながり、3職種の専門性を活かしながら、必要に応じて他課や関係機関を巻き込み対応することができている。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】

専門職の人材不足等により十分な相談支援体制ができていない。

【取り組み方針】

人材確保、人材育成、相談支援体制の検討

専門職の人材募集を引き続き行うとともに複数の職員で窓口相談対応ができるような課内の体制を検討する。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
研修等 受講回数	目標	—	—	—	9	9	回	5	100%	完了（目標達成）	4.0	各専門職のスキル向上を図り、コロナ禍を機に増えたWEB研修も上手に活用し、受講回数は増えている。今後も専門的な相談に対応できる人材を確保するために受講は継続していく。
	実績	—	—	—	9	15		4	75%	順調に進んでいる		
	達成度	—	—	—	100%	167%		3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
	目標						-	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績							1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度											

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	10	計画書ページ	49ページ
事業名	各相談支援窓口職員向け研修の実施		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	5 相談支援体制の充実
担当課	生活保護課

1 事業概要

各相談支援機関の窓口で主に相談支援業務に従事する職員の専門性を高めるため、外部研修などを積極的に受講します。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
生活困窮者自立相談支援事業従事者研修をはじめ、国、県、関係団体が開催する各研修会に参加した。
（自立相談支援事業従事者養成研修、家計改善支援事業従事者養成研修ほか）

【成果】
積極的に研修を受講することで、相談支援に対する意識の向上が図られ、相談員のスキルアップに繋がり、生活困窮者の多岐にわたる課題に対する相談支援体制の強化が図れた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
生活困窮者の相談内容は多岐にわたるため、相談者の個別の課題に対応できる能力が必要である。また、各方面の関係機関との連携が必要であり、それに伴う知識が要求される。相談支援員各々の質の向上のためにも、積極的に研修等を受講することが必要である。

【取り組み方針】
研修会へは可能な限り参加できる体制を構築する。生活自立支援センター内の情報共有を行い、相談支援員のスキル向上に務める。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
研修受講回数	目標	20	20	30	30	50	回
	実績	24	28	33	51	64	
	達成度	120%	140%	110%	170%	128%	
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	オンライン、対面を問わず、可能な限り研修会へ参加することはできており、関係機関との連携強化も進んでいる。今後は研修や連携先との強化で得た知識を生かし、相談者の多岐にわたる課題に向き合い、相談支援へと繋げていくことが求められる。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点がある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	11	計画書ページ	49ページ
事業名	民生委員・児童委員及び福祉員の研修活動への支援		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	5 相談支援体制の充実
担当課	福祉総務課

1 事業概要

市社会福祉協議会と連携し、民生委員・児童委員及び福祉員が行う研修活動への支援を行います。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】

唐津市民生・児童委員連絡協議会の活動の強化及び協議会の円滑な運営のため、補助を実施した。

【成果】

新型コロナウイルス感染症拡大の中、できる範囲内で各地区協議会で研修会などを開催し、民生委員・児童委員の資質向上を図ることができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】

民生委員・児童委員と福祉員が連携した活動の支援。

【取り組み方針】

唐津市民生・児童委員連絡協議会の運営を行っている市社会福祉協議会と福祉員を設置する地区社協と連携し、研修活動の支援を引き続き行っていきたい。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
研修会への参加 (目標値：延べ人数 定数 ×12月×1回)	目標	4,032	4,032	4,032	4,032	4,032	人
	実績	7,378	6,035	5,922	6,493	6,766	
	達成度	183%	150%	147%	161%	167%	
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	民生委員・児童委員に補助を実施することで、研修などが充実され資質向上が図られている。福祉員においても他市町視察や福祉員研修への参加により資質の向上が図られているが、未だ地区ごとに活動差があるため、評価は3.0とする。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点がある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	12	計画書ページ	49ページ
事業名	福祉部門に配置する専門職の雇用		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	5 相談支援体制の充実
担当課	人事課

1 事業概要

福祉部門で主に相談支援業務に従事する専門職職員（例：社会福祉士）の雇用を検討します。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
福祉部門で主に相談支援業務に従事する専門職である社会福祉士について、令和5年度は当該職の募集を実施した。

【成果】
令和5年度の職員採用試験において社会福祉士1名を採用（増員）したことにより、対象職員数は計7名となる。（令和6年4月1日現在）

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
社会福祉士の有資格者が少ないため、採用試験を実施する場合は、受験者数の確保が課題となる。
数値目標の指標については、募集数ではなく、必要な社会福祉士の人数とするなど、検討する必要がある。

【取り組み方針】
福祉部門における各担当課の現状を把握しながら、引き続き相談支援業務に従事する専門職の配置の必要性を検討し、募集を行う。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
新規採用職員専門職募集数	目標	3	2	0	0	1	人
	実績	2	1	0	0	1	
	達成度	66%	50%	—	—	100%	
※評価年度における目標値は、次年度の職員増減計画で募集を行った職種の所管部による計画人数	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	令和5年度は、関係部署の機能強化に伴う業務増及び新規事業等への対応のため、募集を実施した結果、即戦力の採用につながった。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点がある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	13	計画書ページ	51ページ
事業名	成年後見制度利用支援事業		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	6 権利擁護体制の整備
担当課	障がい者支援課

1 事業概要

認知症や障がいなどの理由で、判断能力が十分でない人の権利を守るため、成年後見制度の啓発並びに相談支援を推進します。
また、親族がいない障がい者の成年後見申立てを市長が行うとともに、本人の資力等を考慮し、必要に応じて成年後見人等に対する報酬助成を行うことで、制度の利用を推進します。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
障がい者に関する関係機関からの相談を受け支援会議を開催し、市長申立て手続きを実施中。
また、本人の資力等を考慮し後見人報酬の助成を行った。

【成果】
成年後見制度の利用が必要な障がいのある方に対する支援を図ることができた。安定した制度利用につなげることができた。
成年後見制度利用促進のための中核機関（唐津市成年後見サポートセンター）において、事例検討や受任者調整を行うことを通して、センターの相談対応の向上に努めた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
成年後見制度に対する理解が不十分であり、費用負担が困難等の理由から利用が進んでおらず、認知度が低い。

【取り組み方針】
令和4年10月1日に唐津市成年後見サポートセンターを開設したので、成年後見制度に関する理解と周知啓発を促進し、認知度向上を図る。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
申立件数（障がい者）	目標	1	3	3	3	3	件
	実績	4	1	0	0	1	
	達成度	100%	33%	0%	0%	33%	
成年後見人報酬助成件数（障がい者）	目標	3	4	2	2	2	件
	実績	1	3	3	4	4	
	達成度	33%	75%	150%	200%	200%	

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	市長申立てについては、関係機関からの相談により取り組む場合がほとんどであるため、件数にばらつきがある。 中核機関設置については、令和4年10月1日に唐津市成年後見サポートセンターを開設した。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	13	計画書ページ	51ページ
事業名	成年後見制度利用支援事業		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	6 権利擁護体制の整備
担当課	地域包括支援課

1 事業概要

認知症や障がいなどの理由で、判断能力が十分でない人の権利を守るため、成年後見制度の啓発並びに相談支援を推進します。
また、親族がない高齢者等の成年後見申立てを市長が行うとともに、本人の資力等を考慮し、必要に応じて成年後見人等に対する報酬助成を行うことで、制度の利用を推進します。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
認知症高齢者等に対する成年後見、保佐、補助開始の審判について市長申立てを行った。後見人等への報酬の支払いに対する助成を行った。成年後見制度利用促進のための中核機関（唐津市成年後見サポートセンター）と共に、定期的な事例検討と受任者調整を実施した。

【成果】
成年後見制度の利用が必要な認知症高齢者等に対する支援を図ることができた。報酬助成により、安定した制度利用につなげることができた。成年後見制度利用促進のための中核機関（唐津市成年後見サポートセンター）において、事例検討や受任者調整を行うことを通して、センターの相談対応の向上に努めた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
高齢化が進み、成年後見制度の需要が増加することをうけ、成年後見制度利用促進のための中核機関（唐津市成年後見サポートセンター）を設置した。今後は支援の質向上、周知のための広報、関係機関等による地域連携ネットワークの構築が必要である。

【取り組み方針】
成年後見制度利用促進のため中核機関（唐津市成年後見サポートセンター）を中心として関係する機関・団体等との地域連携ネットワークの構築について協議を重ねながら、権利擁護に係る支援体制の強化、質の向上に取り組んでいく。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
申立件数（高齢者等）	目標	4	4	8	9	10	件
	実績	4	8	5	10	11	
	達成度	100%	200%	63%	111%	110%	
成年後見人報酬助成件数（高齢者等）	目標	4	4	6	7	8	件
	実績	7	6	10	12	18	
	達成度	175%	150%	167%	171%	225%	

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	申立てや後見人等への報酬助成の数値目標は達成したが、更に必要な方が潜在化していると考えられ今後も必要性が高まると考えられる。また、制度の利用促進のため、関係機関等による地域連携ネットワークの構築を必要とする。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

制度自体を知ってもらった後に、地域での見守りや声掛けを行っていただき、適切な機関へ繋いでほしい。

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	14	計画書ページ	53ページ
事業名	避難行動要支援者名簿の活用と啓発		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	7 災害・緊急時の支援体制の充実
担当課	福祉総務課、危機管理防災課

1 事業概要

災害の発生またはその恐れがある場合に自ら避難することが困難な人の円滑かつ迅速な避難のため、特に支援を必要とする「災害時避難行動要支援者」を把握し、避難の支援を実施するために作成する名簿掲載情報のうち、随時更新ができない難病患者に関する情報について、佐賀県唐津保健福祉事務所と連携し、定期的に最新の情報に更新します。
また、市民に対し避難行動要支援者名簿制度の周知を図るとともに、災害時における地域の助け合いのための取り組みを推進するために、「避難行動要支援者名簿」を活用したいと考えている地域の支援組織（自主防災組織など）に対する情報提供のため、名簿掲載者から、平時からの情報提供同意を得るように啓発に努めます。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
「地域における避難支援の手引き」を策定し、地域支援者（民生委員・児童委員、行政連絡員）に配布するとともに、ホームページで公開した。
地域の防災講話や介護支援専門員研修会(R4.7.12)で災害時の避難行動要支援者等の支援について講話等を行った。

【成果】
民生委員・児童委員や介護専門員を対象に、個別避難計画作成の現状や課題について説明を行うなどして、避難行動要支援者それぞれが必要とする支援や具体的な避難行動をあらかじめ整理・準備しておくことの重要性についての理解促進に繋げることができた。平時においても民生委員・児童委員が要支援者名簿を活用し見守り、相談受付に活用できた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
災害時における避難行動要支援者を含む要配慮者への具体的な行動計画等を策定する必要がある。

【取り組み方針】
引き続き、防災部門と福祉部門が連携を行い、有効な避難行動要支援者の支援体制づくりに取り組む。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
平時からの情報提供同意者数	目標	4,000	4,250	4,500	4,750	5,000	人
	実績	3,502	3,391	3,673	3,831	3,806	
	達成度	87%	80%	82%	81%	76%	
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	介護サービス提供者などと研修等を行ったことで、制度の周知などが促進されている。目標達成度につき時期計画で見直す必要あり。名簿掲載者数は増減なく、(死亡や高齢者福祉施設等への入所者は除いているため)同意者数のみの増加は以後も期待できない。名簿掲載者中の同意率に改めるべきか。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

避難行動要支援者制度の理解を深めるとともに、地域における災害時の課題を整理、対応に向けて話し合いを進めていただきたい。

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	15	計画書ページ	53ページ
事業名	自主防災組織の設置及び活動促進		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	7 災害・緊急時の支援体制の充実
担当課	危機管理防災課

1 事業概要

市民の安全・安心のため、地域内で自主的に活動する自主防災組織の設置及び活動促進に努めます。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

<p>【取り組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の小中学校に対し、防災講話（教育）を行った。【相知中（①157人）（②38人）、鬼塚中（22人）、相知小（45人）、成和小（45人）、大志小（41人）】 ・市内の高等学校に対し、防災に関する授業の支援を行った。【唐津西高等学校 1回（38人）】 ・特別支援学校に対し、防災講話と避難所体験を行った。【唐津特別支援学校（高等部）（延べ50人）】 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災講話（防災訓練支援）等 実施回数・・・42回（1,541人） ・令和5年度における自主防災組織の設置数は80組織となり、目標値82組織に対して98%の達成度を達成した。 <p>また、市内の小中学校や高等学校での防災教育活動を通じて、地域全体の防災意識の向上が図られ、地域における防災体制の充実が図られている。</p>

3 課題や今後の取り組み方針

<p>【課題】</p> <p>自主防災組織は地域における自主的な活動であるため、新規の設立に向けては、地域の中にそのような機運や危機意識が十分にあることが欠かせない。しかし、地域をまとめるリーダーの不在や役員のなり手がいないなど、話し合いがすすみにくい地域特有の事情を抱えていることも多く、新規設立数の伸びは鈍化傾向にある。また、設立はしたものの活動が停滞している組織が見受けられる。</p> <p>【取り組み方針】</p> <p>設立や活動内容の相談に丁寧に応じるとともに、地域の依頼による防災講話で成功事例などを紹介しながら、設立の機運を醸成するための取り組みをしっかりと進める。また、今後も意見交換会や地域防災リーダーフォローアップ研修の実施により、市民の防災意識向上及び自主防災組織の活動の活性化を図る。</p>
--

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
自主防災組織設置数	目標	137	73	76	79	82	組織	5	100%	完了（目標達成）	3.0	数値目標は達成しているが、まだ、未設置地区もあるため、引き続き設置促進に係る活動を行っていきたい。
	実績	71	75	76	79	80		4	75%	順調に進んでいる		
	達成度	52%	103%	100%	100%	98%		3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
-	目標						-	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績							1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度											

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

地域の災害時避難行動要支援者や要配慮者のことを把握され、万が一の場合に地域でどのように助け合うべきか理解を深めていただきたい。

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	16	計画書ページ	57ページ
事業名	福祉サービス苦情解決制度		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	8 福祉サービスの質と量の充実
担当課	福祉総務課

1 事業概要

市が所有する福祉施設での利用者の苦情解決を図るため、各福祉施設に苦情解決責任者、担当者を置き、苦情解決に努めます。
また、苦情解決を中立かつ公平に行うため、第三者委員による苦情解決処理委員会を設置します。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
施設ごとに苦情解決責任者、担当者を配置した。

【成果】
社会福祉施設の苦情解決に一早く対応できるよう体制を整備した。また、苦情解決責任者および担当者を中心に普段から利用者の声に耳を傾けるなど、福祉サービスの充実・信頼性の確保に努めた結果、令和5年度の苦情解決制度を利用した件数は0件であった。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
苦情につながる前の環境づくりをさらに強化する必要がある。

【取り組み方針】
各施設の苦情解決責任者等に対して定期的にヒアリング等を行い、利用者のニーズ等の把握及び福祉サービスの充実・信頼性の確保に努める。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
苦情未解決件数	目標	0	0	0	0	0	-	5	100%	完了（目標達成）	3.5	責任者、担当者を配置し、順調に体制整備が出来ていると考える。
	実績	0	0	0	0	0		4	75%	順調に進んでいる		
	達成度	—	—	—	—	—		3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
-	目標						-	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績							1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度											

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	17	計画書ページ	59ページ
事業名	個別計画策定（見直し）時における当事者の参画		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	9 新たな福祉ニーズへの対応
担当課	保健医療課

1 事業概要

各課で作成する個別計画の策定、見直し時において、計画策定委員等への当事者の参画を通じて、新たな福祉ニーズの把握及び対応方法を検討します。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
 （健康増進計画、食育計画）
 5月31日、8月31日、専門部会である健康づくりネットワーク会議、10月27日、1月30日に健康づくり推進協議会を開催し事業関係者などの意見を聴取することが出来た。
【成果】
 唐津市健康づくり推進協議会においては、地区医師会、地区歯科医師会、地域の代表者（農協や漁協、行政連絡員、老人クラブ、社会福祉協議会）、各地区の代表者、行政機関及び学識経験者から健康づくりに関する課題や対策について意見を聴取し、計画策定に生かすことができた。また、唐津市健康づくりネットワーク会議においては、各団体の代表者とライフステージごとに（胎児期・乳児期、児童・生徒期、成年・壮年期、高齢期に）分かれて、グループワークを行い、健康づくりに関する各期の課題を明らかにすることができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
 第3期唐津市健康づくりを策定する為、関係機関や事業関係者等の意見など広く意見を聴取する必要がある。
【取り組み方針】
 健康増進計画、食育計画を統合し、令和5年度に第3期唐津市健康増進計画を策定。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
健康増進計画及び食育計画策定（統合で策定）	目標	進捗管理	進捗管理	実態調査	最終評価	策定	-
	実績	実施	実施	実施	実施	実施	
	達成度	75%	50%	75%	75%	100%	
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	健康づくり推進協議会及び会の専門部会である健康づくりネットワーク会議を開催し事業関係者などの意見を聴取することが出来た。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	17	計画書ページ	59ページ
事業名	個別計画策定（見直し）時における当事者の参画		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	9 新たな福祉ニーズへの対応
担当課	こども家庭課

1 事業概要

各課で作成する個別計画の策定、見直し時において、計画策定委員等への当事者の参画を通じて、新たな福祉ニーズの把握及び対応方法を検討します。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
 令和6年度の次期計画策定に向けて、子育て支援に関するニーズ調査、こどもの生活に関する実態調査を行ったとともに、子ども・子育て会議を開催し、保護者や保育所職員等の事業従事者、地域関係者等の参画を得て、計画改定に関する審議及び今後のスケジュール等の周知に努めた。

【成果】
 計画策定に向けたニーズ調査及び実態調査を行ったほか、子ども・子育て会議において、次期計画策定に関する課題整理や策定スケジュール（年数回の子ども・子育て会議開催、こどもの意見聴取及びパブコメ実施など）について情報共有を図ることができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
 子どもと子育て家庭を取り巻く環境の変化を注視しつつ、次期計画より「からっ子未来応援プラン」との統合を図り、子どもの貧困対策を包含した計画とするとともに、こども基本法やこども大綱の内容を勘案した計画を策定する。

【取り組み方針】
 令和4年度：第二期計画（R2～6）中間見直し審議
 令和5年度：子育て支援ニーズ調査、子どもの貧困及びヤングケアラー実態調査、令和6年度：次期計画（第三期）策定

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
第三期子ども・子育て支援事業計画（R6策定予定）	目標	第二期策定	見直しの審議	見直しの審議	見直しの審議	実態調査	-	5	100%	完了（目標達成）	4.0	次期計画策定の基礎資料となるニーズ調査及び実態調査を行ったほか、子ども・子育て会議を開催し、計画改定についての審議を行った。
	実績	策定	見直しの審議	見直しの審議	見直しの審議	実態調査		4	75%	順調に進んでいる		
	達成度	100%	75%	50%	100%	100%		3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
-	目標						-	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績							1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度											

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	17	計画書ページ	59ページ
事業名	個別計画策定（見直し）時における当事者の参画		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	9 新たな福祉ニーズへの対応
担当課	障がい者支援課

1 事業概要

障がい福祉サービスなどの確保に関する実施計画である、第7期からつ自立支援プランの策定を行います。
各課で作成する個別計画の策定、見直し時において、計画策定委員等への当事者の参画を通じて、新たな福祉ニーズの把握及び対応方法を検討します。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
 ・国の基本指針や計画の策定に当たり実施したアンケート調査の結果、過去の障がい福祉サービスの実績等を基に、第7期からつ自立支援プランの策定を行った。
 ・令和6年2月に、庁内関係部署及び外部団体（唐津保健福祉事務所、唐津市社会福祉協議会、唐津公共職業安定所）を対象に、書面にて前年度事業の計画目標検証（実績及び分析評価の聴き取り）を行った。

【成果】
 当事者を対象としたアンケート調査を行うことにより、当事者の意見を聴取することができた。また、実績の分析評価を行うことにより、今後の計画の方向性を再確認することができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
 計画の策定にあたっては、自立支援協議会に図りながら、当事者の意見、事業関係者等の意見など広く意見を聴取する必要がある。

【取り組み方針】
 令和8年度、令和11年度からつ自立支援プラン策定予定（3年ごと）
 令和8年度第3次唐津市障がい者基本計画、策定予定（10年ごと）

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
からつ自立支援プラン策定（唐津市障がい福祉計画・唐津市障がい児福祉計画）策定	目標	—	策定	検証	検証	策定	—	5	100%	完了（目標達成）	4.0	・第7期自立支援プランの策定を行った。 ・計画目標検証を実施した。
	実績		策定	検証	検証	策定		4	75%	順調に進んでいる		
	達成度		100%	75%	75%	100%		3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
—	目標						—	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績							1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度											

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

特になし。

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	17	計画書ページ	59ページ
事業名	個別計画策定（見直し）時における当事者の参画		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	9 新たな福祉ニーズへの対応
担当課	高齢者支援課・地域包括支援課

1 事業概要

各課で作成する個別計画の策定、見直し時において、計画策定委員等への当事者の参画を通じて、新たな福祉ニーズの把握及び対応方法を検討します。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】

計画策定委員会を開催し、第11期高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画を策定するもの。被保険者代表者枠として9名（全25名中9名＝約36%）を委員として構成。令和5年度中に本会議を4回開催（8月、11月、1月、2月）、作業部会を2回開催（9月、10月）し、介護保険制度におけるサービス利用者（当事者）等の意見が反映されるよう図った。

【成果】

計画策定委員会に作業部会を導入することによって民生委員等の地域の代表者から、実際にサービスを利用する当事者及びその家族等の意見反映の機会を創出することができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】

被保険者代表者枠の委員は、普段より介護保険制度に触れる機会が少なく、制度の基礎知識が乏しい方もおられるため、意見を発せづらい環境であるという意見もあった。

【取り組み方針】

次期計画編成における策定委員会においては、制度知識の習得及び意見を出しやすい環境整備に努めたい。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
高齢者福祉計画・ 介護保険事業計画策定	目標	調査	策定	検証	調査	策定	-
	実績	調査済	策定済	検証済	調査済	策定済	
	達成度	100%	100%	100%	100%	100%	
	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	当事者の参画は達成し、意見反映の機会も創出したが、会の運営方法に対して工夫の必要性がある。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	18	計画書ページ	62ページ
事業名	住宅改修費の助成		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	10 生活環境の整備
担当課	障がい者支援課

1 事業概要

障がい者や難病患者等の住宅における、円滑な生活動作などを支援するための小規模な住宅改修に、必要な経費への助成を行います。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】

身体障がい者（児）住宅改造補助金交付要綱を制定し事業を実施した。

市報、チャンネルからつ、市ホームページにて周知を行った。

【成果】

令和5年度は、「日常生活用具給付費」2件、「身体障がい者(児)住宅改造補助金」2件の合計4件の助成を行った。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】

「身体障がい者(児)住宅改造補助金」は令和5年度から実施の事業であるため、今後も引き続き市報、チャンネルからつ、市ホームページ等で市民へ広く周知を行っていく必要がある。

【取り組み方針】

今後も引き続き市報、チャンネルからつ、市ホームページ等で市民へ広く周知を行っていき、窓口での周知も積極的に行っていく。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
給付件数（障がい者）	目標	5	5	5	5	5	件
	実績	4	3	3	0	4	
	達成度	80%	60%	60%	0%	80%	
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	年間を通して住宅改修に関する問い合わせはあっているが対象にならず、申請まで至らなかったケースもあった。対象となる障がい者まで周知が行き渡るように広く周知を行ってきたい。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点がある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	18	計画書ページ	62ページ
事業名	住宅改修費の助成		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	10 生活環境の整備
担当課	高齢者支援課

1 事業概要

居宅要介護被保険者が、現に居住する住宅について、手すりの取付け、段差の解消、床材の変更、扉の取替え、便器の取替え等の住宅改修を行った場合、介護給付を行うことにより、被保険者が自立した日常生活を営むことができるよう支援する。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
住宅改修費支給申請書が提出された場合、内容を確認し申請内容が適当であれば、住宅改修費（20万円限度）から利用者負担分を差し引いた額を支給した。

【成果】
介護給付を行うことにより、被保険者が、現に居住する住宅において自立した日常生活を営めるよう支援することができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
内容の審査時に、住宅改修として適当と認められる工事の範囲や、工事の適正価格の判断について、専門知識が必要とされる。

【取り組み方針】
内部や他保険者間で情報共有を行い、審査の公平性に努める。
住宅改修費助成（介護保険）の制度（転居した場合や要介護度が3段階以上上がった場合は、支給限度額がリセットされることなど）について周知を行う。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
給付件数（高齢者）	目標	336	336	336	336	336	件	5	100%	完了（目標達成）	5.0	単年度目標の100%を達成することができたため。
	実績	334	335	340	350	377		4	75%	順調に進んでいる		
	達成度	99%	100%	100%	100%	112%		3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
-	目標						-	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績							1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度											

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	19	計画書ページ	62ページ
事業名	高齢者住宅改修支援事業		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	10 生活環境の整備
担当課	高齢者支援課

1 事業概要

介護保険の給付対象となる住宅改修について、居宅介護支援などの提供を受けていない要介護（支援）者に対し、住宅改修費の給付申請に必要な書類等を作成する経費への助成を行うとともに、介護支援専門員が住宅改修に関する相談を受け、助言・情報提供・連絡調整等を行うことで、適切な住宅改修を支援します。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
居宅介護支援の提供を受けていない要介護（要支援）者の住宅改修の利用において、介護支援専門員が住宅改修費の給付申請に係る理由書を作成した場合に、作成事業者に謝金を支払った。

【成果】
居宅介護支援の提供を受けていない要介護（要支援）者においても、住宅改修の申請が容易となった。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
介護支援専門員の制度理解

【取り組み方針】
周知に努める。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
助成件数	目標	48	48	48	48	48	件
	実績	25	21	20	11	22	
	達成度	52%	44%	42%	23%	46%	
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	利用される方の状況で件数が変動するため、件数のみをもって一概に評価はできないが、引き続き住宅改修が利用しやすくなるよう介護支援専門員への制度理解と協力を求めていく。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点がある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	20	計画書ページ	69ページ
事業名	地域コミュニティ組織等の活動への支援		

基本目標	IV 参加しやすくするために
施策の方向	1 1 地域活動の担い手の確保と育成
担当課	地域づくり課

1 事業概要

地域コミュニティ組織の活動やNPO法人等の設立を支援するとともに、その団体が行う自主的かつ主体的な活動を支援します。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】

NPO法人の設立支援や、地域コミュニティ組織である地域まちづくり会議が行う、地域の課題解決に向けた取組みを支援した。

【成果】

市内各地域に組織された地域まちづくり会議の活動に対し、集落支援員の伴走支援やがんばる地域応援補助金の交付を行い、地域が自ら課題解決に取り組む体制構築を支援した。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】

NPO法人の設立については、順調に推移している。地域まちづくり会議については、補助金以外の財源の確保と継続的な運営体制の構築が課題である。また、地域まちづくり会議に成熟度のバラつきが見られ、効果的な地域活動となっているか疑義のあるものが見受けられる。その他、地域によっては、防災や福祉の分野においても同様の協議体があり、それぞれの活動に参画することが、市民の負担となっているという意見もある。

【取り組み方針】

NPO法人の設立に関する手続きなどの情報発信を継続しつつ、NPO活動に関する相談対応の充実を図る。

補助金だけでなく各地域まちづくり会議が自主財源の獲得を実現する手法について検討する。

地域まちづくり会議の委員について、幅広く人材を募る。また、実施事業に関する広報を積極的に行い、各団体のノウハウを広く共有する場を提供する。

地域まちづくり会議の計画立案や活動に職員や集落支援員が伴走する現在の仕組みを継続していく。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
NPO法人登録数	目標	42	43	44	45	46	事業
	実績	43	47	49	51	52	
	達成度	102%	109%	111%	113%	113%	
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.5	NPO法人の設立は順調に推移している。 地域まちづくり会議について、上記課題等が見受けられるため3.5とした。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

地域づくりを推進するためには、核となる人材の育成が必要不可欠であることを念頭に事業に取り組んでいただきたい。

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	21	計画書ページ	70ページ
事業名	がんばる地域応援補助金事業 （地域の市民活動の育成を図るソフト事業）		

基本目標	IV 参加しやすくするために
施策の方向	1 1 地域活動の担い手の確保と育成
担当課	地域づくり課

1 事業概要

地域の市民活動の育成のため、様々な地域課題の解決を図る取組みに必要な経費への助成を行い、その活動を支援した。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】

市民の知恵や発想を最大限に引き出し、活発なコミュニケーションを通じて、地域が自らの選択と責任で個性と魅力あるまちづくりを推進する取組みに対し、補助金を支出した。

【成果】

ソフト事業26件（うち新規10件）、整備事業9件に対し補助金を支出し、市民のつながりを強固にし快適で暮らしやすいまちづくりの実現に寄与した。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】

補助対象事業の範囲が広く、市の他の補助金と競合する部分がある。

【取り組み方針】

市の他の補助事業と競合する部分があるため、市の他の事業と整理・統合を進めていく。

継続の可否について原因を分析するため、補助期間を終えた団体に対する追跡調査の実施を検討する。

事業が継続して実施できるよう、団体の自立化を促進するため補助率の調整を行う。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
新規助成事業数	目標	20	20	20	20	20	事業
	実績	14	13	11	11	19	
	達成度	70%	65%	55%	55%	95%	
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.5	コロナ禍後に順調に新規事業が実施されていることが見受けられる。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

コロナ禍により疲弊した地域コミュニティの活性化を図るため、積極的に事業を実施していただきたい。

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	22	計画書ページ	72ページ
事業名	唐津市ボランティアセンターの運営支援		

基本目標	IV 参加しやすくするために
施策の方向	1 2 福祉ボランティアの推進
担当課	福祉総務課

1 事業概要

唐津市社会福祉協議会に設置している唐津市ボランティアセンターの運営に必要な経費への助成を行い、その活動を支援することで、ボランティア活動への啓発に努めます。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
 学校を対象とするボランティア体験講座等の活動、民間ボランティア団体への活動支援等に対し、補助支援を行った。

【成果】
 ボランティア活動を通じて様々な方との交流の場が増え、生きがいづくりや健康増進に繋がっている。高齢者施設等でのボランティア活動はコロナの影響により未だ実施が難しいところであったが、学校（小・中・高）計22校において、セラピューティック・ケア、要約筆記、点字、車椅子バスケット体験などの養成講座の実施により、ボランティアへの関心や意識を継続させることができたものとする。また、そば打ちボランティア養成講座を実施し、受講生の内5名がボランティアグループ「唐津そばの会」に入会。定例的に会議を実施しており、地域活動への動きがあった。コロナも落ち着いてきたため、ボランティア活動の実施へ動いた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
 ボランティアに参加される方の高齢化が進み、活動が難しくなっており、担い手づくりにも力を入れていく必要がある。また、災害時の復興支援に係るボランティアの重要性も高まっており、体制を整備する必要がある。

【取り組み方針】
 今後、ボランティアのマッチングを適切に行い、必要とされる場所でボランティア活動が活かせるよう、取り組む必要がある。
 また、引き続き、災害ボランティア講座や研修等を増やし、災害時にスムーズに対応できるよう関係団体との協定締結、マニュアル等の作成・設置、危機管理防災課との連携を進める。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
ボランティア講座数	目標	6	73	47	67	67	講座
	実績	10	68	40	27	26	
	達成度	167%	93%	85%	40%	38%	
ボランティア講座への参加者数	目標	180	2,680	2,700	2,700	2,700	人
	実績	155	2,143	2,623	2,115	1735	
	達成度	86%	80%	97%	78%	64%	
ボランティア連絡協議会 会員数	目標	4,200	4,200	4,230	4,230	4,230	人
	実績	4,200	3,764	4,081	4,081	3,540	
	達成度	100%	90%	96%	96%	83%	

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.5	施設等でのボランティア活動が未だ実施できない中、学校でのボランティア活動や屋外での活動強化など工夫されながら活動を継続されていることに評価する。また、災害ボランティアの体制整備も進んでいることに評価する。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	23	計画書ページ	72ページ
事業名	市民活動支援センター「ステップ」の運営支援		

基本目標	IV 参加しやすくするために
施策の方向	1 2 福祉ボランティアの推進
担当課	高齢者支援課

1 事業概要

唐津市社会福祉協議会に設置している市民活動支援センター「ステップ」の運営に必要な経費への助成を行い、その活動を支援します。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
 共生社会構築の拠点の「総合窓口」として、情報提供や相談など市民の出会いの場を提供した。
 効率的かつ効果的な運営のために、ボランティアセンターと統合し、機能を集約するための協議を行った。

【成果】
 団塊の世代が中心となるシニア世代をはじめとした一般市民を対象に、持ち前の技能を活かした活動やボランティア活動へのマッチング、登録した人材情報の活用等を行うことで、市民の新たな活動の場を広げることに寄与したが、大きく目標値を下回った。令和6年度からボランティアセンターに機能を集約した。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
 時代や社会情勢の変化に伴い、事業に対するニーズやボランティア活動に対するアプローチ方法にも変化が生じている。特に災害時の無償ボランティア、地域活動に対する有償ボランティアに対する社会的需要が高まっている。

【取り組み方針】
 ボランティアセンターにおいて、災害時のボランティア活動に対する体制の構築、有償ボランティア活動に対する情報の集約を検討する。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
相談件数	目標	100	100	110	110	110	件
	実績	100	26	48	50	41	
	達成度	100%	26%	43%	45%	37%	
ボランティア派遣件数	目標	70	70	75	75	75	件
	実績	60	16	24	12	16	
	達成度	86%	23%	32%	16%	21%	

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	2.0	相談件数、派遣件数が目標を下回った。活動の推進体制の再構築を図った。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	24	計画書ページ	72ページ
事業名	介護支援ボランティア制度によるボランティア活動の推進		

基本目標	IV 参加しやすくするために
施策の方向	1 2 福祉ボランティアの推進
担当課	地域包括支援課

1 事業概要

介護支援ボランティア制度の周知に努め、高齢者自身の社会参加活動への参加を促します。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】

ボランティア活動を行う者として市に登録を行った唐津市に住む65歳以上の高齢者（要支援または要介護認定者を除く）が、市が指定する介護施設などで行うレクリエーションやお茶出しなどのボランティア活動を推進した。活動に対してはポイントが付き、ポイントに応じて現金に換金して交付金として市が交付した。

啓発やボランティア活動場所の拡大のため、他市町で実績のある佐賀県長寿社会振興財団に業務委託している。

【成果】

高齢者の社会参加や地域貢献の機会を広めただけでなく、ボランティア活動者の介護予防につながった。R5年度ボランティア実績 198人

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】

引き続き、制度の認知度を高めるための啓発やボランティア活動場所の拡大、ボランティア活動登録者のサポートや研修などについて、佐賀県長寿社会振興財団と連携し人材育成が必要。

【取り組み方針】

ボランティア活動登録者の対象年齢拡大と、ボランティア活動受け入れ事業所を拡大させ、介護予防を推進していく。

また、介護施設だけではなく身近な高齢者の通いの場（サロン等）の指定を増やし、地域での介護支援ボランティア実施を検討していく。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
ボランティア登録者数	目標	200	210	210	210	210	人
	実績	258	142	118	163	198	
	達成度	129%	68%	56%	78%	94%	
ボランティア活動指定施設数	目標	120	130	130	130	130	施設
	実績	128	130	131	138	140	
	達成度	107%	100%	101%	106%	108%	

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	新型コロナウイルスの五類移行後より、ボランティア登録者数、活動指定施設数ともに増加している。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

誰でも気軽に参加できるボランティア制度を地域の中でも広げてもらいたい。

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	25	計画書ページ	74ページ
事業名	地域福祉の啓発		

基本目標	IV 参加しやすくするために
施策の方向	1 3 地域福祉に対する意識の啓発
担当課	福祉総務課

1 事業概要

誰もが共に支え合う地域社会づくりを進めるため、その背景や必要性について、市公式ホームページや広報紙等により市民一人ひとりの意識啓発に取り組みます。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】

第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画を策定する過程において、福祉を考える会（32名）、中高校生との座談会（7名）を開催するなど、市民の参画を得ながら、地域福祉の向上に向けた具体的な取り組みや啓発方法、役割分担についての意見を交わすことができた。また、第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画の概要版を作成し全戸配布を行った。

【成果】

第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定において、市民の参画を得ることにより、地域福祉の向上に向けた意見交換を通して、啓発を行うことができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】

第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画を策定し、概要版を全戸配布しているが、地域福祉の概念が市民一人ひとりに根付くように、今後も継続して広報していく必要がある。

【取り組み方針】

第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画の地域福祉の啓発に関する主要事業について、社会福祉協議会も含めて進行管理を行い、地域福祉の向上・啓発に努める。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定	目標	—	—	—	—	策定	—
	実績	—	—	—	—	策定済	
	達成度	—	—	—	—	100%	
—	目標						—
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画を策定し、概要版を全戸配布することで意識啓発に取り組むことができたが、地域福祉の概念が市民一人ひとりに根付くように、今後も継続して広報していく必要がある。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

フードバンク活動への参加をお願いしたい。

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	26	計画書ページ	74ページ
事業名	認知症サポーター養成講座の開催		

基本目標	IV 参加しやすくするために
施策の方向	1 3 地域福祉に対する意識の啓発
担当課	地域包括支援課

1 事業概要

認知症に対する理解を深め、認知症の人やその家族を見守り、支える認知症サポーターを増やし、安心して暮らせるまちづくりを目指します。特に、市内の小中学校や高等学校で講座を開催し、若年層に対する認知症への理解を向上させていきます。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
認知症に関する正しい知識の普及、対応の仕方について認知症サポーター養成講座を開催(24回、初回受講者489人)。若年層への講座にも取り組んだ(4回、受講者190人)。また、講座を受講し、地域で認知症に関するボランティアの意思がある人を対象に認知症サポーターステップアップ研修(4回コース)を実施し、19人が修了されている。世界アルツハイマー月間には、市役所で市民向け講座を開催し、高齢者見守りネットワーク事業者にも認知症サポーター養成講座を実施した。
【成果】
受講後のアンケート結果によると、「症状を理解できた」と回答した者は96%、「対応を学ぶことができた」と回答した者は97%、認知症サポーターについて理解できた」と回答した者は94%で、受講者の大半の方が認知症に対する理解を深めることができた。児童生徒からも「認知症の人にやさしく接してあげたい。」「認知症の人と同じ不安になることがわかりました」、「ほかの人にも話して、認知症の人が住みやすくなりたい。」といった感想が聞かれ、共生社会の実現に向けての新しい認知症観の啓発が図れている。R6年3月末時点のサポーター総数7,444人

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
若年層の申込が少ない。認知症サポーターを受講して、地域でのボランティア活動等をしたと思った人に対し、地域で活動できる場を作る必要がある。
【取り組み方針】
一人でも多くの市民に受講してもらうために少人数でも講座を開催する。また、新しい認知症観の考え方を啓発し、認知症本人の声を届け、認知症を我がこととして捉えられるような講座を実施する。教育機関、職域等にも働きかけ、それぞれの立場で認知症サポーターとしてできることを考える機会を持ってもらう。
また、講座を受講した人に認知症サポーターステップアップ研修の受講希望の有無を確認し、受講後は地域での活動へつなげていく。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
講座受講者数	目標	570	626	200	200	200	人
	実績	579	196	361	331	489	
	達成度	102%	31%	180%	166%	245%	
講座実施回数	目標	30	35	20	25	25	回
	実績	25	11	16	13	24	
	達成度	83%	31%	80%	52%	96%	

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	コロナ禍が明け、サポーター養成数は、目標数を大幅に上回った。しかし、若年層への実施が思うように伸びず、教育機関への働きかけについて検討が必要である。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

養成講座を受講した方がさらに知り合い等に講座を広めてもらうことで受講者(認知症サポーター)をさらに増やしてほしい。

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和5年度）

事業No.	27	計画書ページ	74ページ
事業名	総合的な学習の時間等を活用した福祉教育の推進		

基本目標	IV 参加しやすくするために
施策の方向	1 3 地域福祉に対する意識の啓発
担当課	学校教育課

1 事業概要

総合的な学習の時間等を活用し、障がい者・児や高齢者の疑似体験を行うなど、福祉に関する教育に取り組んでいきます。

2 令和5年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】

各学校で総合的な学習の時間等を活用し、障がい者・児や高齢者の疑似体験などを行った。（例：手話体験【平原小、佐志小、久里小、北波多中など】、サウンドテーブルテニス体験【大志小、打上小、七山小など】、車椅子バスケットボール体験【鬼塚小、成和小、納所小、うつぼ木小、第一中、第五中、肥前中など】、点字教室【東唐津小、西唐津小、巖木小など】、ポッチャ体験【田野小】、要約筆記体験【外町小、馬渡小、高峰中、海青中、七山中など】、**認知症サポーター養成講座【佐志小、巖木中、鬼塚中】**等）

【成果】

疑似体験や**世代を超えた交流活動**を通じて、障がい者・児や高齢者への理解を深めることができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】

体験学習等の実施に係る時間等の確保、安全面の確保。例えば車いす体験などにおいて、試乗することが目的にならないように、支援を必要とする高齢者や障がい者の方々の特性について、理解できるような目的を明確にした体験となるよう指導していく。

【取り組み方針】

各学校への啓発。児童生徒の体験学習の時間を確保する。本物に触れる実体験を大切にしながら、1人1台端末を活用したりリモート形式での体験なども含め、柔軟に対応していく。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
実施校数	目標	53	53	53	53	51	校
	実績	37	13	32	30	36	
	達成度	70%	25%	60%	57%	71%	
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	活動目的を明確にしなが、各学校の実態に応じた体験活動を実践していくとともに、社会の一員としてルールを守り、社会貢献しようとする豊かな心を育むことができています。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点がある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）